



①材料、玉切り材とニス、刷毛

材料は年輪が薄く、白い材、目の細かい材がいい。パウロの森でときどき手に入るエゴノキはいい材だと思う。できるだけ目の細かいノコで切ると表面がきれいになる。直径は5cm～7cmが適当。5cmではやや小さく、7cmではやや大きい。透明ニスは玉切り材を準備して、材が乾燥してから薄くぬる。目的は筆の塗料が材に染み込まないようにするため。筆はニスを塗るだけなので何でも良い。



②絵を描くペン、筆

左の写真にある左側のペンは、紙用マッキー一極細。安いけど色の種類が少ない。真中は、漫画家が使うらしいCOPICというペン。色が260種類ほどある。緑系、赤系、青系の色を使いわけると便利だが、380円/本程度する。他にも色々あり、できれば油性が良い。細いのと太いのが欲しい。透明ニスを塗ってあれば表面上で色の合成も可能。



③鉛筆で輪郭を描く

B以上の鉛筆で描きたいものの輪郭を描きます。後で消しゴムで消すので2度描きでも構いません。ニス塗り過ぎると、鉛筆の下書きが描けません。



④黒の極細マッキーで下書きをなぞって黒線を描きます。玉切り材の地色があるので、基本的には黒線が必要ですが、絵の色が濃ければ黒線はなくても大丈夫と思います。



⑤粗塗り

各部位に色を塗ります。単純に塗ると単なるぬり絵になります。使っている筆によって、使う色の順番を考えます。例えば、黒を塗ってから白で線を描くか、白で細部を描いておいてから周囲を黒で塗るとか。ニス塗ってあるので、使う筆、ペンによっては色の混合が可能です。



⑥仕上げの塗り

黒の上に白い線を描くとか、白の地に黒い線を描くとか、目玉を入れるとか仕上げをします。絵によってはかなり印象が変わります。

左は、UVレジンです。塗ると絵が立体的になり、味が出るのですが、気をつけて使わないと、水性の塗料を溶かすようです。先に、水性の透明ニスを柔らかいハケで薄く軽く塗るといように思います。



⑦完成

左～ビンズイ、表面処理なし

中～センダイムシクイ、表面処理なし

右～サンコウチョウ、UVレジン塗布

どちらもそれなりの味がありますが、UVレジンの光を反射する効果は明らかです。



⑧完成その後

右のアカハラには何も付けてませんが、左のカボチャのタネにはヒートンと100円ショップの根付け紐、中のオオガンクビソウにはヒートンで100円ショップのストラップをつけました。根付け紐は3本で110円ですが、ストラップは確か一個で110円したように思います。